

称号及び氏名	博士(看護学)	藤原 紀世子
学位授与の日付	令和3年3月31日	
論文名	小児看護に携わる看護師が抱く困難感尺度の開発 Development of a Scale to Measure Nurses' Difficulties Regarding Pediatric Nursing	
論文審査委員	主査	檜木野 裕美
	副査	中山 美由紀
	副査	細田 泰子

論文内容の要旨

【目的】 本研究は、小児看護に携わる看護師が抱く困難感尺度を開発することを目的とした。

【方法】 本研究は以下の3段階で尺度開発をした。

1. 尺度原案の作成

小児看護に携わる看護師が抱く困難感に関する概念分析及び文献検討、地域医療支援あるいは特定機能病院の小児(科)病棟に勤務する小児看護に携わる看護師18名を対象とした質的研究(予備研究1)を基に尺度原案を作成した。

2. 尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証(予備研究2、本研究1)

1) 予備研究2: 小児看護の研究者6名、小児看護専門看護師5名を対象に、尺度原案を郵送し、各概念と質問項目の内容が妥当か、整合性、表現の明確性、順序性、回答のしやすさ、項目の過不足について意見を求め、尺度原案の修正をした。

2) 本研究1: 便宜的抽出により抽出した小児看護の研究者5名、小児看護専門看護師5名を対象に、小児看護に携わる看護師が抱く困難感尺度の内容妥当性を検討する質問紙調査を実施し、内容妥当性指数(Item-level Content Validity Index:I-CVI))を算出、項目の内容の過不足、表現の明確性に対する意見を求めた。

3) 尺度項目の修正: 予備研究2及び本研究1の結果に基づき尺度項目を修正した。

3. 尺度案の信頼性・妥当性(本研究2)

地域医療支援病院190施設と特定機能病院38施設の小児(科)病棟において、小児看護に携わる看護師1,040名を対象に、郵送法による質問紙調査を行った。調査項目は、①「小児看護に携わる看護師が抱く困難感尺度(案)」64項目、②「臨床看護職者の仕事ストレ

ッサー測定尺度」、③「職務満足測定尺度」、④個人属性である。分析方法は、項目分析、尺度の信頼性では内的一貫性として Cronbach's α 係数の算出、安定性の検証として再テスト法、妥当性は構成概念妥当性として探索的因子分析、確認的因子分析、基準関連妥当性では、外部基準として「臨床看護職者の仕事ストレス測定尺度」、「職務満足測定尺度」との相関分析を行った。

4. 倫理的配慮

全ての研究は、愛媛県立医療技術大学研究倫理委員会または大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】

1. 尺度原案の作成

文献検討、予備研究 1 から得られたカテゴリーの統合及び概念分析の結果に基づき【子どもの疾患を捉えたケアの難しさ】、【子どもに看護技術を実践する難しさ】、【子どもの発達に配慮した支援の難しさ】、【家族支援の難しさ】、【多職種連携に伴うマネジメントの難しさ】の計 77 項目の尺度原案を作成した。

2. 尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証

1) 予備研究 2: 尺度原案の各概念と質問項目の内容が妥当か、整合性、表現の明確性、順序性、回答のしやすさ、他に考えられる質問項目について検討し、5 項目が統合、25 項目が削除、15 項目が追加され合計 64 項目となった。修正した尺度項目を下位概念ごとに見直した結果、定義における変更はなかった。

2) 本研究 1: 64 項目のうち、I-CVI が 0.78 未満の 4 項目を削除した。さらに I-CVI が 0.78 以上の項目で、意見をもとに 15 項目の表現を修正、4 項目を追加した 64 項目を尺度(案)の項目とした。

3. 尺度案の信頼性・妥当性 (本研究 2)

374 名 (回収率 35.96%) から回答が得られた。研究参加の同意が得られ、欠損値がない 307 部 (有効回答率 82.09%) を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析により、【子ども自身に対応したケアの難しさ】【家族支援の難しさ】【子どもの発達に応じた支援の難しさ】【多職種連携の難しさ】【複雑な問題を抱える子どもと家族に対応する難しさ】の 5 因子 39 項目が抽出された(累積寄与率 57.6%)。信頼性として、Cronbach's α 係数は、0.790~0.937 であった。テスト-再テスト法による下位尺度の級内相関係数は、0.70~0.86 であった。確認的因子分析を適用して適合度を検討した結果、許容範囲であり、適合度指数は概ね良好であった。基準関連妥当性は、「臨床看護職者の仕事ストレス測定尺度」との相関は $\rho=0.362(p<0.01)$ で、有意な正の相関が見られた。「職務満足測定尺度」との相関は $\rho=-0.124(p<0.10)$ を示し、相関はほとんどなかった。

【考察】

小児看護に携わる看護師の困難感について、あらゆる小児看護経験年数の看護師の質的

研究と概念分析の結果から尺度原案を導き出すことができた。表面妥当性・内容妥当性の検証を経て、構成概念妥当性、基準関連妥当性、信頼性は確認でき、開発過程及び方法は妥当であると考えられる。本尺度は、小児看護に携わる看護師が自己評価に活用することができるとともに、管理者は小児看護の困難感の現状やそこに潜む問題を、組織単位としてできる尺度であると考えられる。

キーワード： 小児看護、看護師、困難感、尺度開発

学位論文審査結果の要旨

研究の目的は、小児看護に携わる看護師が抱く困難感尺度を開発することである。

本研究は、尺度原案の作成、尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検証、尺度項目の決定及び信頼性・妥当性の検証の3段階で尺度開発をした。尺度原案は、概念分析、地域医療支援や特定機能病院の小児科病棟勤務18名の看護師を対象とした質的研究結果から作成し、5下位概念77項目で構成した。第2段階の尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証では、小児看護学研究者、小児看護専門看護師の計11名を対象に、尺度原案の概念の定義と項目間の関連性、内容の過不足、表現への意見を得る質問紙調査を実施し、尺度項目は64項目になった。さらに小児看護学研究者、小児看護専門看護師の10名を対象に、内容妥当性指数(I-CVI)、項目内容の過不足、表現の明確性に関する質問紙調査を実施し、I-CVIが0.78未満の4項目を削除、意見から4項目を追加した64項目の尺度案を作成した。第3段階の信頼性・妥当性の検証では、地域医療支援病院190施設、特定機能病院38施設の小児科病棟に勤務する看護師1,040名を対象に、第2段階の尺度案、臨床看護職者の仕事ストレス測定尺度、職務満足測定尺度等を質問紙調査した。分析対象は307名であった。項目分析、探索的因子分析により5下位尺度39項目の尺度を作成した。信頼性では、Cronbach's α 係数は0.790~0.937で内的整合性、テスト-再テスト法による下位尺度の級内相関係数は0.70~0.86であった。確認的因子分析による適合度は許容範囲で、適合度指数は概ね良好であった。妥当性は、臨床看護職者の仕事ストレス測定尺度との相関は $p=0.362$ ($p<0.01$)で有意な正の相関があり基準関連妥当性を認めた。職務満足測定尺度と弱い負の相関を示した。以上から、小児看護に携わる看護師が抱く困難感尺度は活用可能性のある尺度である。

本研究を審査基準に基づき審査した。小児の医療・看護の現状を踏まえた看護師の困難感に着目して尺度開発をしている。論旨は明確であるが、考察の説得力に欠ける箇所がある。尺度開発の段階を丁寧に踏み、倫理的配慮の下で小児臨床看護の現場で活用できる汎用性の高い尺度である。小児臨床看護実践、小児看護学研究の発展に寄与する学術的重要性を有している。

以上のことから、本研究は博士論文としての価値を有し、学位の授与に値するものと判断した。